

令和元年東日本台風に伴う浸水被害への
市の取組みに関する説明会（第3回）

令和元年東日本台風に伴う浸水被害への市の取組みに関する説明会
(第3回)

- 1 日 時 令和2年9月19日(土) 午後3時30分から午後6時まで
- 2 場 所 狛江エコルマホール
- 3 説 明 者 副市長
総務部長
総務部危機管理担当理事(兼)安心安全課長
総務部安心安全課主幹
環境部長
環境部下水道課長
環境部下水道管理担当主幹
環境部下水道課施設管理係長
企画財政部秘書広報室長
日本水工設計株式会社東京支社下水道一部担当次長
- 4 議 題 浸水原因の究明結果及び市の取組み
- 5 参 加 者 43名

(開会)

副市長の挨拶の後、説明者を紹介し、配布資料にそって狛江市より説明。

(質疑応答)

質問者 2点ございまして、逆流が開始のタイミングで水門を閉めるのが一番効果的な話だったと思うのですけれども、去年の写真とか見ると、5時ぐらいに、床上までではないのですけれども、水がたまってきているのです。19時ぐらいにはもう完全に玄関のところまで来ていたと思うのです。

そうすると、逆流が開始されてから閉めると、駒井町一丁目のところって通常の道よりも低くなっているんで、また同じようになる可能性があると思うのです。それからでは遅いと思うのです。それに対してはどうするかというところがまず1点です。

あと2点目は要望になってしまうのですけれども、今回、家の修理とかして何百万というお金がかかっています。今後、また同じ場所に住んでいて、台風がこれから多くなってくるシーズンだと思うので、毎回床上浸水になってしまうと、とてもじゃないのですけれども、もう住めないです。そういう場合、市民に対してどう補償していくか、1回目だったら、さすがにしょうがないなというところはあったのですけど、それが2回目、3回目となるともういいかげんにしてくれよという気持ちになってしまいますので、そういうふうになった場合、市としてはどういうところを補償してくれるのかということを知りたいです。

下水道課長 まず1問目の御質問について回答させていただきたいと思います。

確かに、シミュレーション上は逆流発生時に樋管を閉めることによって猪方排水樋管ですと浸水深が約40センチほど下がるという結果が出ております。

確かに、現状ではシミュレーション上も16時40分、現地のほうも16時過ぎぐらいから浸水が始まってきたという事実があると思います。実際樋管をどうするのだということですが、私たちは適正な樋管の操作要領を改めて作りしましたので、その操作要領に基づいて樋管の操作をさせていただきます。その操作に基づいたところ

で、シミュレーション上は約 40 センチの浸水が発生してまいります。そこを解消するためには、今後ポンプや貯留施設等の対策を中長期的に考えていかなければならないと思っていますところでございます。

質問者　　そうなる、中長期的という話なのですが、今年同じ台風が来た場合は、同じように浸水してしまうということですか。

下水道課長　今年来た場合には、樋管の操作要領を見直しておりますので、新しい樋管の操作要領に基づき職員は操作させていただきます。ただし、浸水深が約 40 センチ下がる程度となってしまうという事は出ております。

環境部長　　40 ページと 42 ページの比較表を見ていただきたいのですが、40 ページについては前回、昨年我々が操作したままの浸水で、42 ページは新たな操作要領ですね、樋管の流向計だとか、そういうことを確認しながら逆流のときに閉めた場合は 49.3 センチということで、前回のものよりも 39.1 センチ下がるということでございます。

その最適な樋管要領の操作をした場合でも内水ははけない、多摩川の水が高いというところですので、逆流は防げますが、これだけの内水の浸水というのはどうしても生じてしまうところでございます。

そのため、今年度から来年度にかけて内水ハザードマップを作成しまして浸水リスクの情報を皆様と共有して水害に対する事前準備に少しでもお役に立てていただければと思っております。

質問者　　すみません、ハザードマップを作成するという事なのですが、そこにもう住んでいる人は、もう危険だよと、そういうことですか。

環境部長　　昨年と同程度の台風、大雨が来た場合で、さらに多摩川の水位が下がらなければ、どうしても内水の排除ができませんので、これだけの浸水は生じてしまうというのが現状でございます。

質問者　　例えば、浸水が現状としてはもうしちゃうよということですね。そうなる、そこって、市としてはもう住むに値しない場所と言ったらすごく言い方変ですが、そういう場所になっちゃうということですか。私にはそうとしか思えないです。

環境部長 住まい方というのも、やはり皆様とともに考えていく必要があると思います。そのため、例えば、まちづくりの中でかさ上げの規制をどうするかだとか、そういったことも含めて総合的に検討するのと、あと、我々、浸水対策部門としては対策量というのも、かなり膨大な浸水量ですので、それをためるのか、はかすのかというのもかなりの規模の面積の土地ですとか、お金もかかるものでございますので長期間の検討を要するというのが現状でございます。

総務部長 先ほど、災害の被害があった場合の補償というお話でございますけれども、昨年の被害に遭われた方には、国なり東京都等と市もいろいろ再建の助成制度を御案内しまして、対応を取ってきたところでございます。まずはそういった被害が、災害が起きないことを最優先に考えてまいるというのは当然ですけれども、被災された場合につきましては、現状、国、東京都と連携しまして対応していくことだと考えております。

質問者 具体的に対応というのは、今の段階では何もわからないということですか。

総務部長 そのときの状況で、当然、市だけで何かできるというものでもないと思います。そういった場合、国なり東京都等に要請、要望しながら対応していきたいと考えております。

質問者 本当に狛江市は悪い場所ではないと思うのですがけれども、ただ、本当に修理のお金とかすごくかかって、現状として次起きたら住めない、そんな感じになっちゃうのです。だから、そういうふうには必ずならないようにしていただきたいと思います。

質問者 8-7、住民の安全確保について伺いたいと思います。
この中で、文言としては、「水位情報等の提供により自治会等の協力を得て避難を円滑にする」というふうな文言があるのですが、この自治会等というのは、それ以外の組織もお考えかなと思いましたが、例えば、この中に避難所運営協議会、あるいは、避難所、そういったことも含まれているのかなと思うのですね。

そうした場合ですと、今、自治会・町内会という組織と避難所という組織と2つあるわけですね。狛江市総合防災訓練では毎年、避難所運営協議会の避難訓練、避難所開設訓練、そういったものを行っています。また、町内会・自治会でもそれぞれで毎年、避難訓練、防災訓練ですか、そういうものを行っているわけなのですが、この2つの組織の在り方というものを統合するような形で今期以降の住民避難ということを考えていらっしゃるのかどうか教えてください。

今回の発災時に、ある避難所に行ったらそこが満杯で、隣に行ってくれと言われてました。隣に行ったらそこも満杯だったというふうなこともあるわけで、やはり総合的で合理的な住民の避難を指示する、あるいは誘導していくというふうな組織が必要ではないかと思うのです。

発災時になったら何がしかこの2つの組織の在り方というものを統合するような緊急的な組織を考えていらっしゃるのか、あるいは、現状の町内会・自治会は避難まではやると、避難所に入ってから生活なり、受付というのは避難所でやってもらおうと、そういうふうなことになるのでしょうか。その辺のお考えをお願いいたします。

危機管理担当理事 前回の台風の時には、避難所運営に対しまして市役所の体制がうまく整わなくて御迷惑かけたこととおわびいたします。その反省を踏まえまして、台風等の水害の場合は、市職員の参集体制をきちんと確立しまして、避難所につきましても自主避難所を早めに開設する、また、通常の避難所につきましては、ある程度一斉に開かせていただく、そのような体制を整えているところでございます。

今、御意見の中で避難所運営協議会というお話が出たと思うのですが、避難所運営協議会につきましては、震災時に避難所の運営をしていただくということでいろいろ活動していただいて、市のほうにも御協力いただいているところでございます。

今回、このような水害がございまして、水害につきましても避難所運営協議会の皆様に市と一緒に運営をしていただく、そうしないとなかなかうまく回っていかないということになりまして、今、水害時のマニュアル等を整備させていただいて、避難所運営協議会の方々に御意見をいただきながらマニュアルを作っているところでございます。

避難所運営協議会と町会との在り方でございますが、避難所運営協議会の皆様につきましては、基本的には避難所内の運営を市とともにやっていただくというようなスタンスでお願いしたいと考えております。また、町会・自治会のほうにつきましては、地域の会員さんのことを把握していらっしゃることもあると思います。そういった観点から、避難する場合は御近所誘い合わせて避難所のほうに避難していただく、そのような取組みを担っていただければという考えているところでございます。

質問者 ありがとうございます。私どもは避難所運営協議会の訓練なんかやっております、一番聞かれるのです。ここは水害だったらどこに逃げたらいいのでしょうか。うちは西和泉なのですが、多分、多摩川が氾濫すると2メートルから3メートルぐらい浸水するということになっているので、ここは水害時の避難所にはなりません。では、どこに行くのか、緑野小に行くのか、隣の中和泉に行くのか、返答できないような状態なので、今いろいろそのシミュレーションをさせていただいておるのですけれども、住民に安心感を与えられるような、そういう避難、どこに避難するかというふうなところを早めに設定していただきたいと考えます。

質問者 うちの周りも、先ほどの表で見ていただくとわかりますけど、駒井町の一丁目辺りが一番被害の件数が多いということで、うちもぎりぎり床下浸水だったのですが、やはり、最初の方が言われたように、これは毎年起こるのだったらもう住む場所ではないです。避難所とかの設営とか、命の安全を守るために必要なことだとは思いますが、実際に、そこで毎年被害に遭わないようにしていただければ避難する必要もないわけです。ただ、うちのほうはもともと住宅地なので、今はちょっと日照権の問題あって、半分3階みたいのできるのですが、もともと2階までしか建てちゃいけない場所です。しかし水害になった場合、5メートル浸水すると2階にいても危ない。これがとても困るので、そういうところを、みんなが安心して住める場所にしていただきたいと思います。例えば、貯水池とかの話は昔から聞いていたのですが、やっぱり、川が近いですから、昔の多摩川の堤防決壊のときもやっぱり川のそばの私の友達の家が流されたりしていますので、水のあるそばは怖い

というのは若干思っていましたけれども、最近は大変な水害がひどくなって、それは別に誰のせいでもないのですけれども、やっぱりそういう貯水池を造るといふのはかなり有効ではないかと思うのです。

ただ、大きな、例えば今、再開発で造っているような渋谷の巨大貯水とか、そういうのはやっぱり財政的にも小さな市で造るといふのはとても大変だと思うのです。ですから、10年、20年かけて土地を守るというよりは、何か小さなもので、小規模でもいいのですけど、何か余っている土地を使って、例えば1年、2年の間で幾つかを造っていくという形はできないのかなと思いました。

それというのも、例えば、うちの周りはほとんど全部住宅地なのですけれども、年配の、お年寄りの方がいなくなって空き家とか増えているのです。それをずっとそのまま放置されているところもありますので、例えば、そういうところを狛江市がある程度買い取って、小規模ながらも幾つか点々と掘って水を逃がすようなところ、または、その上に公園とか造って、地震なんかの場合、水とかではなくて地震なんかの場合の避難公園みたいなところに整備する、そういう、何か地道でいいから内水氾濫が起こらないような整備をしていただけないかと思っています。そういうことは考えの中ではないのでしょうか。

環境部長 御質問、ありがとうございます。貯留施設を何か所か造って対策を施すということは今後検討していかなければいけない課題だと思います。

86 ページに対策の規模ということで、猪方ですと3万8,000立方メートルという巨大な貯留施設を造らなければいけないというところなのですけれども、小学校や公園の土地の地下とかを活用しても、なかなか3万8,000立方メートル賄うのが難しいところもございしますので、貯留施設とポンプ施設を組み合わせるだとか、いろんな対策を今後考えていかなければならないと思っております。

短期的には、先ほど申し上げた最適な操作をすることで少しでも浸水被害を軽減するということなのですが、どうしても内水浸水が生じてしまいますので、可搬式ポンプを新たに設置するとともに、ポンプ車を配備している関係機関とも連携を強化、深めていきたいというふうに考えております。

その排水対策量として間に合わない部分については、先ほど申し上げ

げたように、短期的には内水ハザードマップを周知するというのと、あと、河川による対策というものがございまして、90 ページのところにも多摩川緊急治水対策プロジェクトのものが載っているのですけれども、多摩川の水位を下げて内水を少しでも排除できるというような形を取っていきたいと思っております。

先ほど渋谷の話が出ましたけれども、あれもかなり長い時間がかかって整備されたものでございます。渋谷は、1999 年に地下街の浸水が発生しました。現在、2020 年によくできたというところで、2001 年から工事を始めて、10 年間構想して工事が始まったのが 2001 年、その後 10 年かけて整備して、対策量としては 4,000 立方メートルという、今回の 3 万 8,000 立方メートルという対策量に及ばないというものでございます。

ただ、狛江の中にも旧七小跡地というところに同じような貯留、浸水対策という目的ではないのですけれども貯留施設がございまして、そちらについては 2 万立方メートルですか、そういうような貯留施設もございまして、そういったものを幾つか検討して組み合わせで対策します。ただ、それには 10 年、20 年の事業期間がかかってしまうということだけは御承知いただければと思います。

質問者 わかりました。たまった水を出すのは大変ですけど、やっぱり、その前にたまらないようにしていただくのが一番だと思います。よろしくをお願いします。

質問者 質問というよりは意見と要望になりますが、基本的な点はどういうことかという、今回こういう分厚い浸水被害対策の最終報告というものが出たのでありますが、その中身の 50 ページというものはほとんどシミュレーションに費やされているのです。それで、シミュレーションの結果は何かと言うと、先ほど下水道課長が御説明なさいましたが、ゲートを閉めるのが逆流の時期に近づけば近づくほど浸水量が少なくなるというだけなのです。

しかし、内水氾濫は、こちらのほうも、今お手元に配られているものでは 42 ページのケース 5-1、こちらのダウンロードできる本文のほうでは 56 ページの図の 7-3-11、ケース 5-1 に書いてあります。浸水量の一番少ない逆流直前にゲートを閉めた場合でも、閉めた段階で既に 1 万 3,835 立方メートルの内水氾濫が生じています。

そして、今回、配布されました資料では出ていないのですが、最終報告の本文のほうでは 65 ページの図の 7-3 の 29 のケース 9-1-1 ということで、逆流直前の 21 時 30 分にゲートを閉めた場合、たまたま去年の台風では 21 時以降、降雨がありませんでしたが、もし降った場合、設定としてはゲートを閉めた後 1 時間当たり 50 ミリの経過降雨があった場合、どのくらい浸水量が増えるかということ、3 万 7,221 立米の浸水になる。当日の最大浸水量よりも大きい水害になります。

確かに、被害を少なくする上でゲートの操作時期は重要ですが、ゲートの開閉とは関係なしに内水氾濫というのは生じるのです。今いろいろ短期対策でゲート操作の手順を見直しました、そういうことが強調されています。確かにそれはそれで重要ですが、根本的な解決策にはなっていません。

この報告書ではかなり問題の焦点がわかりにくくなっていますが、内水氾濫の原因は何か、強力なポンプの設置や雨水貯留施設の設置といった本来行政がやるべき施策をこれまでやっていなかった、ということが原因であります。内水氾濫や浸水被害をなくすために強力なポンプの設置、さらに貯留施設の設置といった抜本的な対策、小手先の対策ではなく抜本的な対策が求められていると言えます。

そして、この浸水被害対策の最終報告を見て思うのですが、この抜本的な対策がどれだけ出ているかということ、ほとんど出ていないのです。本文では 108 ページ以下、今日配られたものでは 86 ページ以下に簡単に書いてあるだけなのです。内容は一般的な対策の羅列にとどまって、具体的な中身がありません。日本水工設計さんだったら去年の 12 月にこれ委託してもらって、一月あれば書ける内容なのです。

それで、中長期対策を、もし、これだけの短期対策だけで日本水工設計さんに委託したのだったら、中長期の根本的な対策については本来市がやるべきではなかったのですか。そういう意味で非常に不満を感じます。少なくとも、10 ヶ月とは言いませんけども、半年間以上、対策を検討する時間を無駄にしています。実際、対策の検討が遅れるとどうなるか、実現が先延ばしになるのです。それで、私たち住民は台風が来るたびごとにまた雨が降って、浸水になるのではないかとびくびくしているのです。

はっきり言いまして、時間を無駄にせずスピード感を持って抜本的

な対策に具体的に着手していただきたいと思います。

併せまして、私は下水道課なんかにお邪魔して、いろいろ対策がどうなっているかということをお聞きしています。しかし物すごくガード固いのです。それで、ぜひとも、対策の検討に着手したというのが住民にわかる形で、住民と意思疎通を図って、住民が納得するような形の対策を取っていただきたいと思います。

はっきり言いまして、この間、緊急何とか対策というぐらいに、大きな台風 10 号が 2 週間前に九州の沖を通過しました。そのとき、やはり、台風ですので狛江を離れていてもちょっとすごい雨が降ったのです。それで、私はその強い雨を見て、ちょうど 1 年前の浸水被害に遭った悪夢を思い出しました。それで、翌日、早速、供養塚公園の安心安全課の皆さんが作っていただいた土のうステーションに行って土のうを持って帰りました。ただ、残念ながら、土のうというのは浸水量があった場合、何の役にも立たないのです。私もそれは知っているのだけど、やっぱり溺れる者はわらにもすがりたいとの気持ちで持ってきました。

今ここにおられる皆さんも、また、今日は来なかった人も浸水被害に遭った人は二度とこのような浸水被害に遭いたくないというのは切なる願いなのです。ぜひとも、市の皆さんも住民の意向を受けて具体的な対策、根本的な対策、先ほど環境部長が言いましたけど、私たちも勉強していますからそんなのはみんな知っているのです。だから、具体的な対策をやって、市で駄目だったら、市で予算がつかなかったら都に持っていく、さらに国に持っていくということをやっていただきたいです。

ただ、言えることは、主体的に市が動かなければ都も国もやってくれないのです。そのことを明記していただきたいと思います。ぜひとも、住民の皆さんの意向を受けて積極的な対策を取っていただくようお願いいたします。

環境部長

ありがとうございます。抜本対策が何も書かれていないといった御意見、真摯に受け止めたいと思います。

ただ、今、下水道の整備については 50 ミリの降雨があっても外水、多摩川の水位が上がらなければしっかり流れるというシミュレーション結果が出てございます。勉強されているので本当に釈迦に説法で恐縮ですけれども、12 ページに当日の降雨状況、昭和 49 年の破堤

のときを目標に今の多摩川というのは整備がされていますけれども、それを 1.5 倍上回るような雨量が出てしまった。計画高水位を超えるようなところが何か所も発生しているという状況を受けて、今、京浜河川事務所でも河川整備計画の点検、見直しというものが行われておりますので、もし見直された場合はそれに基づいた河川整備というものが行われてまいります。

その結果が、短期的にはこの 5 年間で、90 ページにあるような計画水位を超えた三角の部分ですね、それを下回るような形でやっていきたいというふうに京浜河川事務所から聞いてございます。

貯留施設、あと、ポンプ施設、何も書いていないではないか、本当におっしゃるとおりだと思います。ただ、これは先ほど渋谷の例を申しあげましたけれども、やはりこの 10 年、20 年、さらに財源どうする、また、調布市との調整等々ございますので、少しでも時間を無駄にせずいろんな対策を組み合わせ、どの対策がいいのかといったことの計画を立ててやっていきたいというふうに考えてございます。

質 問 者　　すみません、そういうのはもう何回も聞いているのです。それで、具体的に対策に着手してもらいたい、検討に入っていただきたい、そういうことなのです。今まで、この 1 年間、はっきり言いますが、狛江市さんのほうで中長期の検討に入ったのですか。

そんな、一般的なアクションプランに書いてあるようなことを、同じことしゃべらないでくださいよ。ホームページに書かれていないようなことをしゃべってください。よろしくお願いします。

環境部長　　中長期の検討については、これからというところがございます。

質 問 者　　なぜ中長期の計画がこれからなのですか。なぜ今できなかったのですか。少なくとも 10 ヶ月間無駄にしているのです。1 年の無駄というのは物すごいのです。また浸水するかもしれないのです。あなたたちはそういうの全然関係ないからいいだろうけど、浸水被害に遭った人は 1 年延びれば浸水するかもしれない、引っ越さなくちゃいけないか、そういう真剣な話なのです。

ですから、はっきり言って、この最終報告で、こんな程度の具体的中長期対策しないとと言いながら、市がやらなくちゃいけないのでし

よう。はっきり言って、この 10 ヶ月無駄にしているのです。それで具体的に、対策が決まったとしても、基本設計、それから詳細設計、少なくとも三、四年最低かかるのです。ですから、スピード感を持って、ぜひ具体的な対策の検討に着手してください。お願いいたします。

質問者 民間施設との避難場所に関する協定の締結ということで、ユニディさんとニトリさんを使いますよというふうに書いてあったのですが、この中で車両での避難が必要な方のための避難場所というふうに書いてありますが、この必要な方というのはどういう方を想定しているのかを教えてくださいのと、あともう一点、駒井町一丁目なので内水氾濫の被害があった者なのですが、それ以外に、以前、多摩川の堤防の狛江側のかさ上げ工事をするというような記事がどこかに載っていたかと思えますけども、それがたしか来年の 1 月 29 日までに完了しますよというようなことが出ていたかと思えます。その工事の内容を教えてください。

危機管理担当理事 ユニディ、ニトリの駐車場への避難が必要な方ということですけれども、避難所につきましては、今はコロナ対応であるとか、また、プライバシー等々がなかなか確保できない状況でございます。体育館等の避難所において生活することが大変かなというような、例えば小さいお子さんをお持ちの方だとか、あとは、ペットと一緒に避難する方だとか、お年寄りがいらっしゃる方が車、ワンボックスみたいなちょっと大きな車があれば、その中で、御家族だけでプライバシーを確保できるような、そのような方を想定しているところでございます。

質問者 自分で判断するということによろしいですね。

危機管理担当理事 はい、結構でございます。

質問者 もう一問のお答えをお願いします。

環境部長 土手天端の工事につきましては、小田急線より下流側の工事をこれから行う予定でございます。ちょうど京浜河川事務所が 9 月 15 日に

契約を結びまして、土手の堤防の高さが足りていない部分のかさ上げと、その上に舗装を施すという工事を行ってまいります。舗装を施すことによって堤防が決壊しない、決壊するまでの時間を稼ぐ粘り強い堤防にするといった効果がございまして、9月15日に契約をしまして、出水期明けの11月から工事が始まりまして、年度末までに工事を終える予定というふうに伺ってございます。

質問者 その間の、土手の上は使えなくなるというか、歩けなくなるというか、通行できなくなるのだと思いますけども、その際の交通というか、その辺の移動はどうすれば、別の道を造るのかどうかというのを教えていただけますか。

環境部長 迂回路については猪駒通りを通っていただくとか、そういったことを京浜河川事務所の工事会社が周知していく予定でございまして、本当に住民の皆さんには御不便をかけるところもございましてけれども、御理解、御協力をお願いしたいと思います。

質問者 それの住民説明会みたいなのはやるのですか。

環境部長 京浜河川事務所からはコロナ対策の関係で、住民説明会はずらずに、各お宅に自治会を通して周知をするというふうに伺っております。

質問者 ありがとうございます。

質問者 先ほどの話とかぶるのですが、ニトリとユニディの駐車場に合わせて600台から700台近くの避難ができるというあれがあるのですが、車で避難しましょうというふうになったときに、車でその場所に着いたら、また避難所いっぱいです、次のニトリのほうに行きました。いっぱいです、ユニディのほうに行ってくださいと言われてユニディのほうにまた行くではないですか、そこもいっぱいですというようなことがまた起こるのではないのかなと思います。

避難所のほうも、かれこれあと何週間で1年がたとうとしていますが、駒井町の家に住んでいるとしたら二中に避難するのですが、二中で避難所がいっぱいになっています、六小のほうに行ってください、六小のほうでもいっぱいになっています、このコロナ禍でソ

ーシャルディスタンスを保ちながら避難するというのは去年の避難所の人数よりもはるかに少ない人数しか入れないことになると思うので二中で避難所がいっぱいになっています、六小のほうに行ってください、六小のほうでもいっぱいになっていますとなると思います。

この2週間の間に、もしその台風が来たときに、また同じことを繰り返すのではないかと思うのです。避難所問題、あのときにみんなうろうろ、雨の中、風の中、したわけです。その中で、また、まだ対策が取られていないわけです。そうすると、また同じことが起きます。そして、車両で避難できるというふうに言っていますが、そうしたら今度車両で避難した先が、またいっぱいになって、私たちはどうすればいいというふうに、また同じことが起こるんですね。

誰が、何世帯の人たちが二中に行こうとしているのか、そういうアンケートとか取って事前に把握して、例えば避難勧告が出ました、この学校には何世帯の人が来ます、そういうのはもう把握されているのでしょうか。

危機管理担当主幹 具体的な数は把握してございません。去年の避難所を開設するときに、避難所がなくて六小に移動してくれといった話があったことは大変申し訳ございませんでした。

そのため今回、先ほどもちょっと説明させていただきましたが、スペースをなるべく多く確保するというので、今まで体育館だけだったものを校舎のほうも開放できるような形にする、また、水害につきましては職員をあらかじめ各避難所に張りつけるだけの人数を参集させて、避難所を一度に開いて対応するなどの対策は取っております。

また、これからになりますが、避難所の混雑状況をホームページ等でお知らせできるような形も考えているところでございます。

何分、駒井町、猪方、あるいは西和泉の皆さんが全員避難できるようなスペースは物理的に確保することはできません。このため、浸水想定区域以外の方とか、あるいは、その御親戚、知人の方に避難させてもいいよというような方がいらっしゃる場合はそちらのほうになるべく避難していただく、そういった取組み、周知を市のほうとしてはせざるを得ないというところです。物理的に皆さんが避難するスペースは正直言ってございません。

市民の皆様も、できれば違う安全な場所に御自分のお力で避難できるような検討を進めていただければなと思っところでございます。

質 問 者 物理的に無理な方もいらっしゃいますよね。車を持っている方も、遠くの親戚のほうに避難するということも可能な方もいらっしゃいます。ただ、無理な方もいらっしゃいます。その無理な方が何人いるのか市のほうで把握していないと、同じことが起こります。

そして、近くの住民の人は、私は二中に避難しようと決めていた人は避難勧告が出る前から避難するでしょう。そのときから避難所は満杯ですと言われるかもしれない。そして、もうこれは駄目だ、水が来た、避難しなきゃというときに、もういっぱいどここの避難所にも入れない人が出てくるかもしれません。

何人いるのか把握する事前の準備が今できるのではないのでしょうか。アンケートでも取ればいいではないですか。そのほうが一人一人の意識が高まると思うのです。こういうアンケート結果が出ました、私はここにしか行けません、私はあそこにしか行けません、もしくは、助けがないと避難することもできませんという人もいらっしゃいますよね。その把握も必要だと思うのです。車椅子の方、高齢の方、助けが要る人はたくさんいると思うのです。そこに市の職員の方が直接お伺いして避難しましょうと言わないと避難できない方もいらっしゃると思うのです。そこら辺の把握は市でしかできないことだと思います。

近隣の方の助けを借りて、自治会の助けを借りてということは考えないで欲しい。みんな一人一人が必死なんです、そのときは。市のほうでも把握して、それは、もちろん助け合います。だけど、それができない人もいます。何人も固まっている人、地域もあるかもしれない。この人を助けて、この人を助けない、そういうこともできない、その選択肢になってくるかもしれない、時間がないときは。助けられなかった人がいるというのはおかしいです。

特に去年の台風のときは逃げる時間があった。あれだけの水が来たけれども逃げる時間があったから、今回命に関わるようなことはなかったのかもしれないですけど、これが決壊だ、地震によって、一緒に地震も起こって、もしかしたら水が決壊したところからどんと来ちゃうかもしれません。時間がない避難のときに何人助けられる

かということも併せて、最悪の事態を併せて市がどう動くかというのを把握するような時期に来ていると思うのです。こちらはもう想像つくので、危機対策が足りない気がする。

だから、本当に何週間後に台風が来たときにどこに逃げればいいのか、どこに避難すればいいのか、教えて欲しいです。私はそういう時はもう狛江市内にはいないでしょうが、それができない人たちもいらっしゃるわけだから、アンケートを取って、ここに行くのだな、この人数はおおよそ何人になるなというのを把握しておけば、この人数になったときにこっちから来た人はこっちですよと、二中のほう、もういっぱいになっちゃったので六小のほうに行ってくださいというのを道の真ん中でできますよね。二中の前ではなくて。二中の前で門前払いをするわけではなくて、その手前で避難している人を六小のほうに回すことはできないのですかね。そういうことも考えていただきたいと思います、想像力を働かせてください。お願いします。

危機管理担当理事　しっかり考えていきたいと思います。

質問者　お願いします。

質問者　今のお話の連続なのですが、そこに書いてあるユニディ狛江店 375 台、ショッピングセンターニトリが 350 台、全車両エンジンをかけて車の中にいますよね。夏、クーラーをかけて。どれだけ排気ガスが出ますかね。実際にそこで停泊できますか。想像してください。みんな死にたくないから、我先にそこへ行くのです。

この間どういう状況になったか、皆さん誰も知らないと思うのです。今、避難するときに二中に行く、あっち行く、こっち行く、我先ですよ、車も。狭い道路を、どきません。けんかですよ。説明者はどなたか住んでいますか。

具体的に被害に遭われた方は、床上浸水に遭った方は東京都、国からどういう対応をしてもらったか、御存じですか。床上浸水でどういう対応したか、実際にどんなふうに出張してもらったか御存じですか。

あっちこっち皆さんいろんなことをおっしゃいましたが、駒井町の一丁目からどうやって車で逃げるのですか。先ほど猪駒通りと

おっしゃっていました。猪駒通りは浸水して車、走れませんよ。どうやって逃げるのですか。

あそこは、前回2メートル近くに水が浸水したんです。車なんかで逃げられるものではないです。どなたか住んでいらっしゃいますか。本当に逃げるということをどうやって具体的に考えたか、考えていますか。そのユニディの狛江店に何台入れるのですか。本当にそこに泊まれるのですか。そんなの無理です。それは絵に描いた餅ですよ。

それから、64 ページから課題と今後の方向性と書いてありますけど、皆さんおっしゃっていますけども、今後の方向性もいかげん過ぎます。もう少し具体的に、この弁解論ではなくて具体論をもっと考えていただきたい。10 か月あったとかおっしゃっていますけども、僕はここへ今日来たのは、浸水被害への市の取組みに関する説明会というから来たのですが、これは弁解論が半分ぐらいあって、具体論は本当に少ないと思いました。

恐らく、どなたも住んでいないのではないかな、実際の実感が本当に薄いなと思いました。私たち市民にはできないんですよ。市民には穴を掘ることはできません。先ほど貯水槽を造るのに10年かかったと言っていました。渋谷はよくやりましたよ。阿佐ヶ谷も偉かった。当時、僕は、阿佐ヶ谷は中杉通りに地下駐車場を造ればいいではないかと思いました。でも、あそこを貯水池にした。偉かったですよ。あそこに駐車場なんか造ったらとんでもないことになっていました。渋谷だって偉いですよ。狛江市をそういう市にしてくださいよ、ぜひ、よろしくお願いします。

質 問 者 駒井の方々の話を聞いていて本当にちょっと痛い気持ちになるんですけど、何か聞いていて具体的な熱を感じないというか、具体的な対策が見えてこない中で、例えば、本当、狛江が住めない、水につかるとわかっているのだったら狛江に住めないよと逆にアナウンスしてください。

それか、もしくは逆に、その修理をするとか、今後住めるようにするために、例えば建築要件を緩和するのか、例えば防災に強いような建て替えをするとか、まちづくりをするための助成金をつけるとか、何かそういったものを考えていただくとか、10年先の貯水、流水地とかそういうことではなく、今、我々が何をできるか、そうい

ったものを多少なりとも示していただかないと、ちょっと気持ちとしては落ち着かないのではないのでしょうか。その辺何か、都や行政として何か動いていることってあるのでしょうか。

副市長 87 ページ、市長といっしょに私も同行して赤羽国土交通大臣に要望いたしました。1 か月後に国交省に直接直談判をいたしまして、その 89 ページにあります多摩川緊急治水対策プロジェクト、流域の対策を行って欲しいということで、ここで要望いたしまして実現した次第でございます。

また、市長につきましては、知事との懇談会の中で防災公園という形での提案をしています。先週の9月17日ですけども、やはり、小池知事にポンプ車の派遣という形を具体的に要請をしております。

そういったことで、できるだけ総合的に皆様の安心を確保できるように努めているところでございます。

質問者 見える形で、ぜひ、よろしくお願いします。

質問者 私は、駒井町に賃貸で住んでいて、狛江市に来て5年たつのですが、とてもいいところだと思って賃貸から9月に自分の家を買ったのです。それが岩戸南で、ついの住みかということで1階を選んだのです。そうしたら、そこは4メートル来るところだったということで、私がちゃんとハザードマップを見ていないから、今はやりの自己責任かもしれないのですけれども、岩戸南は、私も第三小に避難したのですけれども、結構あります。雨、風の中、ちょっとした荷物を持っていくというのは本当に結構大変だったのですけれども、そこは、もう第三小の体育館のトイレからは水が出ていて、でも、体育館にみんなは避難していて、緊急の体育館だったから椅子と体育用のマットしかなくて、それでみんな避難していたのです。

それで、岩戸南に、今ようやく1年たつのですが、住んでみて、結構、高齢者の方が多いのです。私の近くにいる人は、旦那さんが足が悪くてとても歩けないから、2階までは行けるけどそれ以上は行けないから、私も一緒に水が来たら死にますと、ついこの間、昨日かおとといか言っていました。

それで、岩戸南から第一中学校なんかとても行けないし、そうする

と、今コロナでソーシャルディスタンスを取ると、第三小に何家族が入れて、第六小に何家族が入れて、第二中に何家族が入れて、何人入れるかという数字を出していると思うのですけれども、それで、去年は 4,000 人の人が避難をして、議場まで開けて、全国テレビで出ちゃったですけど、そんな感じなのですよね。

だから、今、地球温暖化で、私はもっと夏、気温が上がると思うのです。そうすると、太平洋のほうから来る台風はどんどん強くなるのです。だから、50 年に一度みたいなことを言っているのはもう昔の話です。

だから、本当に今年、去年以上のものが直撃するというふうに考えているのか、考えていないのか、ちょっとこれではわかりません。本当にわかりますか、私の 1 階の家が去年買ったばかりなのに今年水につかっちゃったよとなったら、私はどうしたらいいのでしょうかという気持ちを、その生活、私の命の権利、生活する権利を、市は狛江の 8 万 2,000 人の方をしょっているのですよ。そのことわかりますか。

岩戸南には喜多見中学校がすぐそばにあります。それで、世田谷区に私、電話してみたら、喜多見中は開けないつもりだと言っていました。それで、次にこの狛江市に電話しました。ぜひ喜多見中を開けてもらえるように狛江市から世田谷区に言ってくれないかと、電話しましたよね。聞いていますよね。聞いていないですか。市民の声を聞くのではないですか。ちょっとそのときの名前の方はわかりませんが、私、言いましたよね。

それぐらい必死なんです。高齢者の方が安心して、ちょっと行けばある、喜多見中に行けば避難ができるのです、岩戸南って。第三や第六に行くのは大変なのですよ。雨の中、行ってみてくださいよ。皆さんも雨の中仕事しているかもしれないから大変さをわかっているかもしれないけど、狛江の人だから入っちゃ駄目とか、世田谷の人だから入っちゃ駄目と、そういうことはいけないのですよね。前に聞いたことがあるのですけど、誰も拒んじゃいけないのです。だから、ホームレスの人も拒んじゃいけない。そういうふうなことが去年 10 月話されたのですけど、だから、もうコロナでいっぱいなのだからいろんな手を尽くすという、何かそういう真剣さというか危機感、さっきその女性の方言っていたけど、本当に危機感を共有して欲しいのです。

だって、ここで亡くなった方が出たといったら、本当に狛江市の責任ですよ。税金もらって働いているわけですし、命を守るのが自治の基本ですよ。やっぱり、どのくらいの方が避難をするのか、どのくらいの方が困っているのか、やっぱり一軒一軒でも、8万2,000人だけど、家族にしたら何軒かよくわからないけど、回ってみて、声を聞いてもらいたいのです。

アンケートをするのもいいと思うけど、アンケートなくしちゃう高齢者も多いからなのですが、世田谷とぜひ連携して喜多見中を開けて欲しい。コロナがあるから増やして欲しいです。そういう思いで私がいるのと、この前の10月より巨大な台風が来るという基本で考えていくと、先ほどのポンプのことなのですが、内水をポンプが引き上げる、ポンプの馬力としては小さい気がするのですが、もっと大きなポンプにすれば早く水ははけるわけではないですか。そういうのはどうなのかなと思って。ただお金がないというだけでは済まされない、命のほうが大事だからと思うのですが、ポンプのことと、あと、世田谷区との連携についてはどうですか。

下水道課長 ポンプについてお話しさせていただきます。

おっしゃるとおり今、各排水管にポンプ、可搬式ポンプを新たに増設させていただきました。そのポンプの能力的にはかなり低いものですが、あくまでも浸水被害を、浸水が起こった水を少しでも早く排除するために緊急的には設けております。

今後そのポンプを増量したほうがいいのかとか、大きいポンプをつけたほうがいいのかとか、そういったことも検討していかなければならないと思っていますし、排水ポンプ車につきましては、東京都や国等で連携しながら、有事の際はポンプ車をお借りするという形も考えておりますので、様々な面で検討していかなければいけないと思っています。

質問者 そのポンプ車は、みんなどこでも欲しいと思うのですよね。狛江市に必ず来るのですか。

下水道課長 現状では、この狛江が被災していれば調布、世田谷も同じような状況だと思います。その中でポンプ車を要請していくわけです。当然、数には限りがあると思いますので、優先的に持っていくところは決

まってくると思いますが、それでもポンプ車は必要ですので私たちは要望していきたいと思っております。

質問者 去年は世田谷の二子玉川のあたりがすごかったではないですか。その辺に持っていかれちゃうと、こっちに来ない場合もありますよね。そういうの、必死の形相で都知事に頼んでもらいたいです。とにかく狛江一番ということで、ぜひ、私たちは、お金がないならみんなが都や国に行ってきます。だから、金がないからどうしようもないとかではなくて、私たちも狛江市を応援するので、何とか頑張りたいのです。だから、対決というより、頑張りたいです。

危機管理担当理事 すみません、避難ができにくいようなお年寄りの世帯だとか、障がいのある方など、災害時の要支援者につきましては、福祉部門のほうでリストアップしていただき、実際に避難するときはどういった避難行動ができるかというような計画を立ててくださいといった手紙を出して、なるべくそれに答えていただき、市と一緒に考えていくといったような取組みはさせていただいております。安心安全課のほうからも福祉部門のほうにしっかりと要請していきたいと思っております。

喜多見中学校の件については、浸水想定区域内にある中学校ということで、世田谷で今のところ開かないというお話になっています。ただ、世田谷、調布等の近隣とは連携体制を取っておりますので、そういった会議の中で要請等々をしていきたいと考えております。

質問者 ぜひよろしくお願ひします。どんどん、がんがん言っていってください。

質問者 降水雨量が2日間で316ミリ設定ということで、それが想定内の範囲なのかなと思うのですが、今回、石原地点で490、1.5倍ということで、今度これが想定内になりますよね。プラスアルファの想定内というふうになると思うのですが、そこはどうなのですか。基準が変わるではないですか、今回で。これに対して大丈夫、駄目という基準が知りたいです。

下水道課長 まずは、今回の多摩川緊急治水対策プロジェクトという中で、石原

雨水観測所の水位を 60 センチ下げるといふふうにして目標値を立てております。その水位につきましては、多摩川の計画高水位という氾濫しないような水位なのですけども、そこを目指して 60 センチ下げていくということですので、そういう意味では、そこが 60 センチ下げることによって危険な水位にはならないという考えで国のほうでは工事を進めていくと思っております。

質問者 それは多摩川の水位ということですよ。

下水道課長 そうです。多摩川の水位です。

質問者 雨量を基準にしないといけないのではないかと思います。今、内水氾濫した理由というのが、結局、住んでいる住宅のほうの雨量にも関わるわけではないですか。それを考えないとおかしくないですか。多摩川の水位は水位で当然基準はあると思うのですが、雨量というのを考えないと判断基準ができないのではないかなと思います。

環境部長 おっしゃるとおり、雨量が増えたので流量のほうは 1.25 倍ぐらいになるというのがこの 12 ページの表でございます。なので、今までは昭和 49 年の洪水を流下できるような目標を立てていたのですけれども、今般こういった出水が生じたので、京浜河川事務所でも現行の計画の点検というような有識者会議を開いておまして、その中で見直しが必要というようなことが出れば、新たな目標が出て、その新たな目標に基づいた河川整備が行われるものと思っております。

質問者 河川整備ではなくて、逆にこの樋管のところの、要はポンプ設置するだとか、あと、雨流の貯水槽を造るとか、そういうのもそっちの基準で当然造るといふことでいいですね。

環境部長 今回シミュレーションに時間かかってしまったので申し訳なかったのですけれども、計画雨量が 50 ミリで狛江の下水道は整備されておりますので、その雨がマックスで降ったときにどれだけ対策が必要かといったことを対策量として示してございますので、それに基

づいた対応というものを、先ほど遅いというお叱りをいただきましたけれども、早急に検討していきたいというふうに考えてございます。

質 問 者 都なり国なりの基準でまた検討し直すということでもいいですかね。

下水道課長 そうです。下水道、市内に下水道管が至るところに入っているのですけれども、時間 50 ミリに耐えられるような下水道管整備をしております。今回のような浸水被害につきましては、多摩川の水位が上昇したことに伴い水がはけなかったということなのですが、実際は、時間 50 ミリ降ったときに多摩川に排水できなかつたときにどうためるかも含めて、今後、検討が必要になってくると思っております。

質 問 者 わかりました。

あともう一つ、今回、浸水被害への市の取組みに関する説明会ということで来ているのですが、これははっきり言って、設計会社さんの調査結果だけですよね。取組みという取組みはないですよね。何をやります、何をやります、というのはないですよね。今、出ているのというのは、検討する、これから検討します。何をしますというのは全くないです。説明会になっていないですよね。本当の説明会、またいつやってくれるのですか。

下水道課長 すみません、今現状で市のほうで対策したものにつきましては、樋管の操作の見直しというのが1つ大きなところがございます。その操作の見直しをするに当たりまして、各樋管に水位計等を設置しているところがございます。

その他の短期対策といたしましては、今、樋管の遠隔化の設計を行っているところや、内水ハザードマップを作っているところが短期対策としては行っているところがございます。

質 問 者 それで内水氾濫が止まるのですか。今の話だと止まらないですよね。今、何をやっているのですかという話なのです。それで、この取組みの説明書が出るのではないのでしょうか。何年後かには貯水槽ができますから、こういう取組みをしていますからと、これ、違うでは

ないですか。これから検討する。取組みではないですよ。本当遅いです。だから、ちゃんとした説明会をやってください。これは取組みではないです。これから実施するという説明会を年度内にやってください。これからというか、前回、10月に台風が起きています。その10月というのがもう来月なんです。待てないのですよ。それだけ待てないので、年度内にちゃんと説明会、もう一度やってください。こういう対策をしますという練った対策案を持って説明会をやってください。お願いします。

環境部長 年度内にどんなことをやるかというのは非常に難しいと思います。これは新たに予算要求をしてその対策、どのようなものかということをやっているかなければいけない。昨年度から補正予算等を組みまして、水位計の設置一つについても設計から整備まで時間かかる中を、どうにか出水期前に間に合わせるということで、必死に取り組んでまいりまして、それに基づいて最適な樋管操作というところまでが短期対策として出尽くしているというところでございます。

あとは、誠に申し訳ないのですけれども、内水氾濫は起こるものというところで内水ハザードマップを見て、本当に自助、共助の部分で対策をしていくしかないというのが、先ほど温暖化の現象のことにもありましたけれども、そういうところが日本全国各地で起きています。

1.1 倍の流量を今後、温暖化対策でやっていかなければいけない、国も考えていますけれども、その河川による対策、流域による対策だけでは追いつかない部分というのはソフト施策ということで、そこは本当に避難だとか、そういうところに頼らざるを得ないというところが実情でございますので、長期対策についてはしっかり予算を組んで検討してまいりますので、その段階になりましたら、しっかり公表していきたいというふうに考えてございます。

質問者 どのくらい予算がかかるかどうかの検討していないではないですか。

質問者 方向性は出ますよね、予算がどうのこうのではなくて。方向性は出ますよね。何をやるかとか。予算ありきなのはわかるのですが、

方向性を出して欲しいです。

環境部長 方向性としては、本当にたまったものをためるか流すしかないのが、それはもう皆さん本当に御存じだと思うのですけれども、ただ、それに対して樋管の直近の土地が必要だとか、対策の場所も必要です。お金は置いておいても、そういうところから検討していかねばいけないので、先ほどおっしゃったような基本設計とか、そういうところから始めるという予算をつくって検討していきたいということでございます。

質問者 今日はこのような席を設けてくださってありがとうございます。

本当に今まで皆さんの御質問とか御意見なんか聞いて、本当そのとおりだと思って、毎日川を眺めております。

それで1つ御提案というか、この間の土手をかさ増しするという話を聞いて、そのときに土手の耐用年度というか、そういうのもある程度決まっているのかなと思ひまして、というのは、道路に通る車の音が去年と今年と全然違います。

だから、鬼怒川の決壊、土手が崩れましたよね。だから、土手って絶対というふうに思って狛江に住んだのですけども、そうではないんだということがわかって、それから、こんな立派な土手があるのにそんなにも思っていたら、うちは道路と土手を共有しているところに面しているのです。土手だけではなくて道路にもなっているのです。だから、大きいトラックなんかもどンドン通ってます。乗用車は普通なのですけど、トラックが2年前はブーンと、ドスン、少し1回ドスンとするのですけども、去年はそんな感じで1年いたのですけど、今年になりましたらガタガタガタというふうになるのです。

ということは、変な言い方ですけど、土手が弱っているのかなと思って、それでかさ増しをするときにそういう土手の強度を測るようなものがあるのかなと思ひました。土手が決壊したらもう狛江はほとんど水がつくのではないかと思うんです。だから、それができればちょっといいかなと思って、今のこのポンプとかそういうのももちろんなのですけども、土手が決壊してしまったら大ごとになるなと思って、それを1つちょっとお尋ねしたり、何か提案したいと思ひましてお時間いただきました。

環境部長 御質問、ありがとうございます。土手の決壊については、まさにその鬼怒川の決壊を受けて国土交通省が全国の河川を緊急点検しまして、5年以内に、狛江は土手、土の堤防でございますので特に天端とって一番上のところが舗装されていない箇所は、やはり破堤する可能性が高いというところで、補強という意味で、今後、先ほど申し上げた11月から3月までの間、土手の高さが足りていない部分については高くするというのと、あと、舗装することで粘り強い堤防にするという工事を行ってまいりますので、よろしく願いいたします。

質問者 まだ9月の中で、10月になりますけども、この10月と9月の末と、これからと、10月と11月ぐらいには去年よりも強い台風が来るのではないかなと恐れているのです。10号のようにあんなに強いのはどうかかわからないですけども、そうすると工事もやめて、またできませんよね。だから、意外とのんびりやっているのだなというふうに、あの通知を頂いたときに思いました。何か早急に、何か測って、ここは大丈夫というような、お墨つきがいただきたいような気がします。

環境部長 工事につきましては、どうしても出水期にはできないということがございまして11月からになってございますけれども、今年の台風を受けて、狛江高校前のところについてはかなり被害が大きかったので、そちらについては国に要望して7月前までにやっていただいたというところでございます。

質問者 1974年だったと思うのですが、この間「アナザーストーリーズ」で狛江の決壊を放送していたのです、NHKで、つい2週間前か3週間前ぐらいに。あれは何かの意図があるのかなと思ってすごく恐ろしかったのです。ですから、うちのほうは前に決壊して家が流れたところの多摩川寄りのほうです。少し寄ったところなんで、あそこは大丈夫というものは、市ではそういうのわからないですか。

環境部長 決壊しないような対策を国に要望し、今回、天端の舗装がようやく実現したというところでございます。また、決壊というのは、先ほ

ど計画高水位を超えるような出水が出たというところですので、その場合は、本当に申し訳ないのですが、ハザードマップを確認して、そこが何メートルになるかというところの備えというのも、もしも万が一のときに備えていく必要があるのではないかというふうに考えてございます。

質 問 者 ポンプがあるところの少し何メートルかこっち側のほうのところな
のですね。去年の跡形を見ると、もうあと少しで土手を越えて水が
流れたと思うのです。だから、安心はしていただけないと思います。
今年は雨量が多く強いです。今まであんなふうに降ったことはない
のですけれども、一時降って、ぱつとやむのですけど、あれが何時
間も降っていたら相当の水かさになると思うのでそういう心配が非
常にあります。何かそういうので事前に決壊しないような対策をポ
ンプと一緒に考えていただかないと、狛江全体が水害になるのでは
ないかなと不安に思っております。よろしく願いいたします。あ
りがとうございました。

司 会 ありがとうございます。
こちらで説明会のほうを終了させていただきます。
長い時間お聞きいただきまして誠にありがとうございました。